

(議長)

次に、まちづくり推進課所管の予算並びに関連議案について、一括補足説明を求めます。課長、端的にあの説明、質問者も端的に質問をお願いします。時間を見て質問をお願い致します。

はい、「課長」。

「まちづくり推進課長」 (補足説明)

はい。

それでは、私の方から平成29年度のまちづくり推進課所管の予算について、ご説明致します。

資料、別冊の資料の方で説明していきたいと思います。資料の7頁になります。

ナンバー16番、文書広報費であります。広報誌の印刷製本ということでの予算を計上しておりまして、事業内容については昨年度と大きく変わっておりません。予算額は、514万2千円となり、30万3千円の減額となっておりますが、これは広報印刷ページの調整ということで、年間を通しての調整をしたということでございます。

次に、資料の8頁をお開き願います。ナンバー34番から47番までが企画費でございますが、まず新規事業の説明を致します。ナンバー34番の北の江の島構想推進であります。先般の議会全員協議会でお示ししたとおり、これから構想を計画にしていこうというために、ハード・ソフト両面での事業全体の構成や事業費の積み上げ、或いはゾーニングごとのイメージパース、そういったものを作成する経費を委託していきたいと考えております。本業務は、外にコンサルに丸投げするというのではなくて、町の方針を形にするといったスタンスで実施して参りたいと思っております。予算額は200万円を計上しております。

次に、ナンバー35番の市街地活性化対策であります。旧江光ビルの跡地の活用に関し、引き続き商工会と連携を図り検討を行って参るというものでございます。なお、本年度は、一般質問にもございましたが跡地の整備の方針決定までに一定の時間を要することから、この間の跡地の景観等に配慮しながら、簡易な花壇整備等も商工会と連携して行っていきたいと考えております。いずれの経費につきましても、商工会の方に補助金として助成をし、行っていきたいと思っております。予算は256万円でございます。

次に、ナンバー36番の地域づくり大学連携事業であります。昨年度からスタートした道教大との包括連携協定を受けて、いにしえ街道沿い、極端に言いますと皐月蔵チャミセの裏の蔵の方に、学生が活動する拠点の場所の整備を行ってきたいと思っております。また、まちづくりに関する様々な取り組みを、この予算の中で行ってきたいと思っております。

次に、ナンバー37番のバリアフリー、38番の檜山管内7町と東京都特別区との連携事業でございますが、昨年度の地方創生加速化交付金、或いは地方創生の上乗せ交付金、

活用して始まった事業を継続して展開して参るということでございます。その中でバリアフリーレジャーというところでいきますと、今年度は開陽丸の記念館の中のですね、階段の昇降設備をちょっとやってきたいということと、これまで同様、追分会館、中村家、あるいは開陽丸の方に介助員のスタッフを配置するというので、それぞれの経費については各課の所管の方に計上しております

また、ナンバー38番、東京都特別区ですが、今、現在檜山行政、広域行政組合を事務局として担って頂いておりますが、29年度からは上ノ国町にまた事務局を移しながら今後3年間23区との連携事業を進めるという内容でございます。

次に、ナンバー39番のまちづくり推進交付金でございますが、昨年度の地方創生を推進するという役割で創設しましたが、本年度も引き続きハード・ソフト両面の面から地方創生を強力に推進していきたいと思っております。

次に、40番、地域おこし協力隊の配置について、であります。現在、役場内に3名の協力隊がおりますが、本年度はマリンスポーツの振興に従事する方を応募して参りたいと考えております。予算額は、434万、432万4千円ということで、414万円程度減額となっておりますが、これは昨年採用した方が所管課の方に予算を移したということでございます。

次に、41番のふるさと応援寄付金でございますが、本年度はこれまで地域おこし協力隊員が、このふるさと納税の任務を担って頂きましたが、町内に顔の見える方、或いは町内で色々とフットワーク良く動ける方ということで、ふるさと納税推進員を新たに配置して、こまめに個店をまわって商品のリストアップ、或いはスピード感をもった業務を取り進めるといったことを行って参りたいと思っております。一応、給付金の予定額につきましては、5千万を想定しております。予算額は、8,792万1千円となって、前年比186万、188万6千円の増となっております。増額の主な要因は人件費でございます。

42番の情報発信強化でございますが、町のホームページのコンテンツということで前年と大きく変わってございません。

34、43番の乗合タクシー、これも鹹川から小黒部までの予約制のタクシーの運行でございますので、大きな変更はございません。

44番の開陽丸青少年センターの補助であります。本年度は、開陽丸の記念館内にWIFI環境の整備を行って参ります。海の家開陽丸の管理棟内はWIFI環境の整備を昨年行いましたが、船内の方がWIFI環境の整備が図られてなかったということで、今年度行うということにしております。前年比の予算と対比して、444万9千円減となっておりますが、これにつきましては、昨年中監視システム改修しましたが、改修しましたが、そのシステムの改修が終わったということでの減でございます。

あと最後、すみません、最後でございますが、45番の企画事務でございますが、これは前年と大きく変わる所はございません。

ナンバー46番、47番につきましては、財政課の所管でございますので、財政の方で

説明致します。

次に、資料の9頁でございます。ナンバー75番の統計調査総務費であります。本年度は、工業統計調査などを行って参ります。35万7千円となり、全額国、道の支出金となっております。前年比25万9千円の減となっておりますが、昨年、経済センサスがありましたが、それが終わったということでございます。

あと大きく歳入だけ少し説明させていただきます。

予算書の主だったところです。30頁をお開き願いたいと思います。予算書の30頁の、国庫支出金、国庫補助金、総務費国庫補助金、地方創生推進交付金という欄がございます。資料の方にも載せさせて頂いております。別冊の資料のですね、資料17番、17頁にあります。地方創生の3事業の交付金の部分を見込み、見込みをこの歳入に入れております。

それと予算書34番でございますが、この頁では統計調査の委託金、或いはふるさと納税の5千万を計上しているといったところでございます。

以上でございます。

(議長)

はい。以上で説明が終わりましたので、一括質疑を許します。

質疑希望ありませんか。

「飯田議員」。

「飯田議員」

企画費の関係でございます。北の江の島構想の推進でございますけれども、基本的なコンセプトと言いますかね、確かにあの海水浴場も整備する、島の上の方に、キャンプ場、色々計画も出されておりました。花月の跡地も整備しながら、何らかのこう民間の中でこうやるというそういうお話もありましたけれども、基本的に、あそこのやっぱり相当上っていく階段が急ということで、例えばその高齢者の方々や、障害のある方、大変だということで、これ何かやっぱりこうイメージとして、そういう機械的なものを考えていらっしゃるのかどうか、その辺ちょっとお伺いしたいと思います。

(議長)

「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

江の島の中で、かもめ島の上に上がるアシスト的な機能のことなのですが、まちづくり懇話会の中でも様々な意見が出されました。私共も、あそこは道立自然公園の特別地域ですから、大きなことはちょっと出来ないと思うのですけれども、可能なことは少し今想定

しているものがありますが、これはもう少し時間をかけて、あの形になった段階でちょっと皆さんに少しお示ししていきたいと思しますので、宜しくお願い致します。

(議長)

いいですね。

はい。「飯田議員」。

「飯田議員」

これ私の考えですけれどね、やっぱりあのかもめ島は、唯一こう江差の町民の大きな財産なのです。やはりあまりですね、手を加える等、何なりしないでやっぱり、残す自然はきちんとやっぱり残してもらいたい。やっぱり構想の段階で、やっぱりそういうような基本的な考えを町で持ってもらわなければ、やっぱり階段は、何かアシスト的なものを作るとか、極端な話ですよ、エスカレーター的なものを作るということではなくて、何かやっぱりもうひとひねりをして、極力自然を破壊しないような形で、やっぱり自然は残して、残された自然を大切に、さらにそういう中で島に上がっていくような工夫を考えられないものかという風な気持ちは持っているのですが、その辺どうでしょうね。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

議員協議会の中でも、室井議員の方から確かあそこは自然のままの方がいいのではないかという色々な意見も出されております。まちづくり懇話会の中でもそういう話もされております。総体的にその辺も踏まえながら、あのハードでしっかりやるところ、そこに集まった人が逆に島に上られるような、そういう動線を作れば、形としては成り立つのかなと思います。

ただ一方で、高齢者の方々がやはりなかなか島に上がりづらいという声も、私共の耳にも入っていますので、そこは少しハード・ソフト、或いは硬軟使い分けて、そういった仕組みをちょっと考えてみたいと思います。宜しく申し上げます。

「飯田議員」

議長、出来れば発案者の町長のちょっとあの考えも出して頂ければありがたいです。

(議長)

「町長」。

「町 長」

今、飯田議員から前向きなご提案があったと思います。

私も、何らかの形で自然環境を守りながら、上にも多くの人を上げて頂くような環境を作っていきたいと思っています。その中で考えられること、今検討しているまさに段階でございまして、どのようなことがいいか、ある意味では少し奇抜なアイデアも採用していかなければいけないのかなという風な思いも持っています。そういう中で、町民の方、議会の方と議論を交わしながら1年かけてどのような方策がいいかと考えていきたいと思っていますので、今後とも引き続きご提案がありましたらお聞かせ願いたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

(議長)

次、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。

ふるさと応援寄付金の委託料のことですが、ふるさと応援寄付金事務委託と、その下の方にふるさと応援寄付金特典事務委託とありますけども、これはどういう風な違いがあるのでしょうか。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

特典の方なのですけども、あの群来さんの、旅行、宿泊の関係と、あと一般の商品の関係との2つに分かれているということなのですよね。考え方としては。

(議長)

いいですか。質問がちゃんと通じてない。

「まちづくり推進課長」

はい、すみません。私のちょっと勘違いです。

事務委託につきましては、あのさとふるさんの方に、委託する料金でありまして、特典付き委託というのは、群来さんの、町長のおもてなしツアーに対する委託の支払料でございまして。

「小梅議員」

はい。

(議長)

良いですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい。

次、「小林議員」。

「小林議員」

地域おこし協力隊員のことについて、ちょっとお伺いしたいのですけれども。

各課またがっているのもちょっと答えるのも大変かなとは思いますが、本来イベントの企画、商品の開発、実施などをして頂く隊員だと思うのです。そしてまたこのスキルを磨いて頂いて定住して頂いて、江差町をもっとよい町にして頂くということだと思うのですけれども、現状ですね、地域イベント等への参加、主にこれだと思うのですよ。これ土日なんか、やはりイベントだと土日になってしまうと思うので、この隊員たち休めているのかな。本来、この企画とかに熱意を注がなければいけないことを、こっちに時間を割いてしまっているのではないかなと思ってしまうのですが、いかがですか。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

まず、あの今、あの地域おこし協力隊につきましては、文化財の方、或いはあの観光DMOの方に2人、それですね、3名です。観光の方につきましては、実は観光コンベンション協会の業務と、地域DMOの方と振り分けをしております、あの基本的にはそのイベントの方にもお手伝い出ている姿はあるのですが、あの極力自分の、稼ぎ、稼ぐことをこの3年間できちんと身につけてほしいというのが、私共もあの彼らに言っていることなのです。

ただ一方で、同じフロアにおりますから、やはりその事前の準備は別としながらも当日対応というのは必ず出てきます。基本的には地域おこし協力隊は時間外という制度がございませんので、代休制度でございますから、所管課の方には確実にその辺の取得と消化について、また相談して参りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

「小林議員」

はい。

(議長)

はい。「西海谷議員」。

「西海谷議員」

中心、中心市街地活性化対策のことにつきまして、これにつきましては商工会の方に新しい、新たなプランという形で、委託するというか、という話を聞きましたのですけれども、昨年も、ある程度の画が飾ってきましたよね。その絵ね、これ以上、町としてどこまで求めていくのか。いつ結論を出すつもりなのか。その辺の考え方を教えて頂きたい。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

はい。

旧江光ビルの跡地の関係で、提言書は頂きました。経産局とも協議を進めて参りました。ただ、あの画の方なのですけれども、あれ全てをやるとなると我々の方でも試算しましたが、少し多額な額になりまして、ちょっと事業としてもはばける可能性がございます。今、足し算引き算、或いはその12月議会で室井議員からもございましたが、あの都市計画マスタープランを策定することによりまして、また違った意味の補助金も引き込めるということですから、上町街区、或いは町内全体のゾーニングもしっかりしながら、その役割をしっかりつけていきたいなと思います。それによって江光ビルの跡地に何が必要かということが出てくると思います。塚本議員の、にもお答えしたとおり、駐車場、或いはイベント広場という位置付けになるかもしれません。

一方で、そうじゃなくてももう少し違った象徴的な建物があって、そこに人を誘客するような建物になるかもしれません。それは都市計画マスタープランとその辺の熟慮をしながら、ゾーニング全体の中で考えていきたいと。ただ、今年商工会に補助することにつきましては、26年度にやった経産局の報告書ありますよね、水色の。あれが実は20、私これまで答弁してきましたとおり29年度の事業着手でなければ賞味期限が切れてしまいます。ですから、若干の今の、現状のニーズ調査を少し取り入れながら、賞味期限を延ばしていくということをし少しテクニクとしてやってきたいなと。また一般の方々がこの2年、3年の間であそこに対する思いがどう変わっていったのか。これももう少し追跡した中で、整理していききたいなと思っております。以上でございます。

(議長)

はい。

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

それですと、いわゆる経産省の方の、関係だけで去年の資料がどうやって生かされるのかというのは、やはりあの時間とお金をかけてあれだけの資料を作った訳ですよ。それを最終的に、予算だけの話で決めちゃうのかね、今回このその辺を、予算をつけたことで去年の資料を活かす形に変えていく方向性なのか、全く白紙の中で改めてね、それぞれのご意見を聞いた中でね、結論を出していくのか。その辺の整合性というか、これをどう考えているのか。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

私の先程の答弁が悪かったのかもしれませんが、0に戻すということは私言っていない。26年度にやったものの賞味期限が切れますので、それをまず延ばすということです。それによってハード事業取り込める選択肢がまた広がるということです。

もう一方で都市計画マスタープランを策定することによりまして、経産局以外の国交省系の補助も取り入れる可能性が出てきます。その中で何回も言いますがゾーニングの中で何が必要かということがもう1回出るでしょう。

ただ、26年に地域の方々、或いは商店街の方々、そういった方々の声を拾い集めたあの報告書については、無視するつもりはありません。あの中から何が必要か、或いは全部やるのか。そういうものも踏まえて、整理をしてきたいということでございます。

(議長)

はい。

次、「小野寺議員」。

小野寺議員、あの時間を見て質問してください。ね、お願いしますよ。

「小野寺議員」

あと、いらっしゃるのですか。

(議長)

あといない。あなただけ。  
そうしたら、「塚本議員」。

「塚本議員」

私はちょっと単純な質問をさせていただきます。

まちづくり推進課、これ広報編集そちらの担当ですか。あの議会も特別委員会で議会の広報紙、何か月かおきに発送しています。先日も町の広報紙が来ました。これなら読んでみたい、待ってましたみたいな広報紙をぜひ作って頂きたいなと思うのですが、何か事業の羅列で終わっている。あれ町の、町民からアンケートをとったことありますか。毎回見てもみたいな。あとはこの広報紙作るためにどういう皆さんが研修を受け、他の優良事例を確認しながら切磋琢磨しているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

これまでの町広報の魅力作りにつきましては、実はあの平成26年度でしたか、だったかな。広報モニターを募集して、少し変化をしていきたいということで募集しましたが、残念ながら応募される方はおりませんでした。

私共、毎月広報委員会、応募しました、応募しました。いなかったですよ。いないっていう認識でおりますが。あとでちょっと整理しますが。私が聞いている範囲は、26年度の時点で広報モニターを応募したがいなかったということを聞いております。

庁内、役場の内部では広報、やはり塚本議員おっしゃるとおりですね、数少ない役場の、と町民を結ぶ情報ツールなのです。ですから、もう少し読んでもらってとか、見てもらうとか、そういう部分で、工夫が必要だろうということで、毎月広報委員会もやっているのです。少しずつ、まち・ひと・きらりと、コーナーを設けたり、地域おこし協力隊の通信を入れたりとか、少し読ませたり見せたりという工夫はしていますが、29年度以降も、広報委員会引き続きやっていきたいと思っておりますし、町民の方の、意見は常に広報誌の中にも、広報にご意見をお寄せください。或いは、ホームページでもそういう募集をしていますので、門戸を広げてその皆さんの意見を踏まえながら、やれることからやっていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

(議長)

理解してほしい。

はい、他に質疑希望ありませんか。

小野寺議員、時間見て。はい、「小野寺議員」。

「小野寺議員」

そうしたら1つだけにします。

まちづくり推進交付金にのみ、ちょっとお聞きしたいと思いますが、ちょっとごめんなさい。交付要綱を持ってなくてあの、申し訳ありません。そもそもこれ、次年度、新年度事業継続の部分、若しくは単年度の部分、若しくはものによって違うのでしたっけ。ちょっと申し訳ない、教えて頂きたいのと。

それから、個別のことで恐縮なのですが、江差地域活性化協力隊。これは主な事業内容というのが、ちょっと教えてもらいたい。最初の頃、フェイスブックでもかなり出して、わあ、すごいなと私見ていたのです。ちょっと私、最近の記憶ではどうだったのかな、ちょっとごめんなさい。私のやり方が悪かったのか。概略で構いませんので、ちょっと教えて頂きたいなど。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

昨年度創設したまちづくり推進交付金については、基本的に単年度の補助金でございます。ただ家賃補助とかにつきましては2年とか、複数年に渡るものもございます。

若者交流促進事業ということで、地域活性化協力隊に助成している部分でございますが、28年度につきましては、かもめ島のマリンフェスタに合わせながら、イベントや、或いは成人式での交流事業、また百人一首大会、あと先般行われました江差で飲まナイトとか、あと函館の若者とか、道南圏の若者とすごい交流をしています。実は、こういうお話があります。先般、江差追分会館に若い人がだだだだっと来たそうです。で、ほとんど道南の人たちだったみたいなのですけれども、それがその函館で行われた交流イベントでその若者たちが、江差のお祭りをものすごくお話、熱く語ったそうです。そして山車会館に行けばその山車が見られるよと。お祭りの雰囲気も味わえるよということを聞いて、初めて江差に来たという若者が相当数いたそうです。確実にそういう若者は若者の中で、あのSNSを使いながらも、色々な輪を広げているなど思っておりますので、今しばらくこういう若者の動きを、少なくとも地方創生の期間は支援していきたいなど思っております。以上でございます。

(議長)

いいですね。

「小野寺議員」

はい、はい。

(議長)

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

あの、分かりましたというか、押しなべて色々な補助事業、別にこのまちづくり推進交付金だけではないのですが、ただ町としての本当に大きな目玉でありますし、事業費も大きいと仕掛けも大きいということもあるので、俗っぽく言うときちっとした成果がどういう風になっているかということ、当然それは一定の書式で、仮に複数年にまたがろうが、先程のまちづくりじゃない、子ども子育ての計画もそうですけれども、それは一定の事業評価もしながら、また次に繋げてくと、そういう段取りは当然きっと交付要綱になっていると思うのですが、それがどういう風になっているかというのと、ちょっとついでで申し訳ないのですが、せっかくでここで申し訳ないのですが。

江差地域活性化協力隊の事務局と、それからだいたい隊員さんってどれくらいいらっしやるのか、ちょっと教えてもらいたい。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

まずあの、地方創生に鑑みて、あの色々な子育ても含め、或いは学校給食費の助成、色々な事業が補助金として今出てきています。これにつきましては、毎年PDCAを回して、先般も27年度の先行型事業でやったものについて、外部の方々を入れて意見を頂いております。事業評価は、必ず回すことになっていきますので、ただ、あの財政課、或いはそのこともお話しているのは、少なくともこの地方創生の総合戦略の期間につきましては、頑張っこの事業を、続けていきたいと。これが、明日、明後日、成果出るのではなくて、5年後、10年後に花が咲けばいいのかなと思っていますので、ここは財政も少し腹をくくって、あのこの事業を見守っているという状況でございます。

(議長)

はい。

他に質疑希望ありませんので

「まちづくり推進課長」

すいません、答弁漏れありました。

事務局、地域活性化協力隊の関係でございますが、今、会員は15名でございます。事務局につきましては、檜山振興局の方が事務局を担っております。はい。以上でございます。

(議長)

あと分からないことあったら、また聞いてください。

他に質疑希望ありませんので、まちづくり推進課所管予算並びに関連議案について、質疑を終わります。